資料　2

H27．7．6　京丹後市

質問事項

1．府中市議会議員倫理条例について

(1)　条例制定に至る経緯と背景

・別紙経緯のとおり（資料　1）

(2)　対象を議員だけにして、市長なども加えた倫理条例にしなかった理由

・条例制定に至る経緯による
・立法事実（問題となる議員の活動）

(3)　第４条で請負契約辞退を２親等の範囲にした理由

・斎藤文男九州大学名誉教授
「新版　政治倫理条例のつくり方―クリーンな地方政治のために」
・「資料３」の５３市の状況調査により

(4)　第５条で議員も審査の請求ができることにした理由

・議員が問題視していた状況
・「資料３」の５３市の状況調査

2．倫理条例制定における影響について

(1)　条例制定の前後で変化があったか
・特になし

(2)　最高裁判決後の状況について
・特になし

(3)　倫理条例に関して、市民や議員、市職員、企業などの受け止め
・特になし

3．条例改正における注意点

・事実がなければ条例制定（改正）する必要はない。
・どこまで制約するのか。

雲南市視察報告書

京丹後市議会清風クラブ

１、　視察項目

島根県雲南市における移住定住対策について

２、　視察概要

雲南市は、過疎化・少子高齢化による人口減少に対処するため、移住定住に対して多様な支援策を実施している。空き家の調査や利活用対策、空き家に関する各種補助制度も充実していることから、先進自治体の事例として視察研修を行った。

３、　雲南市の取り組みについて

雲南市は、平成１６年１１月１日に大東町、加茂町、末次町、三刀屋町、吉田町、掛合町の６町が合併し誕生した。人口は４０，８５０人、面積は約５５３㎢で、高齢化率３４％、中心市街地を核として、山間に集落が点在する曲型的な中山間地である。「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をまちづくりの理念に掲げている。

移住定住対策としては、行政内部の組織として、政策企画部に「雲南暮らし推進課」を設けている。雲南市の定住対策のメインは次の３点に要約できる。

① 定住推進員・定住企画員制度　（２７年度増員：３名⇒５名）
② 空き家活用（H１７～２６の空き家バンク成約件数２２９件）
③ 地域との協働による定住推進（市内３０の交流センター単位で設置）

①の定住推進員の仕事は、ワンストップでの相談窓口として、空き家情報の提供や、就業，就農支援、定住後の生活サポートなど幅広いものとなっている。また27年度から定住企画員を２名配置し、定住推進委員の業務に加え、空き家バンクの運営、移住者の受け入れ、ブログでの情報発信、お試し移住プログラム、移住者からの相談など、さらにきめ細かい支援体制を組んでいる。

このような体制を組んだことによるメリットとして、市の説明では、素

早く対応ができること、きめ細かな対応ができること、窓口が明確化されていることによる安心感を与えられること、定住希望者が望む情報を的確に把握し素早く、丁寧に提供することができることをあげている。

利用された移住者の方からは、相談から移住まで一貫して同じ推進委委員に対応してもらい安心して移住ができた、とか、手続きなども手助けいただき助かった、などとの感想がよせられているとのことだった。

②の空き家活用については、空き家バンクの他、空き家情報の獲得、空き家の家主との交渉などに力を入れている。平成17年から２６年の空き家バンク成約件数は２２９件だった。

空き家調査事業として、市内を３ブロックに分け、調査委員を６名配置した他、地域協力員を地域自主組織ごとに１名を配置して、空き家情報の収集や所有者の意向の確認、物件詳細調査などを行い、調査結果はデータベース化されていた。

調査にかかった費用は、１２８７万円だったが、これは国の緊急雇用創出などの交付金を活用されていた。

③は市内の学区単位のような規模のエリアの自治会などで、空き家情報の収集や、地域自主組織と市の担当との情報共有、受け入れ機運の醸成への協力を進めているものである。

雲南市の定住支援の具体的な制度としては次のようなものがある。

１・空き家改修事業補助金
市外から定住するものが該当し、空き家の改修費用が５０万円以上で、補助率は対象経費の２分の１以内、補助上限は５０万円。

２・空き家片付け事業補助金
空き家情報活用登録物件に限り、雲南市に定住を目的に空き家を住居として必要な部分の片づけに要する費用の一部を補助する制度で、上限額５万円。

３・雲南市Ｕターン促進空き家リフォーム事業
地域自主組織と協働し、空き家を子育て世代（小学生以下の子供がいる世帯）の UI ターン用住宅として整備する。入居者の要望に沿ってリフォームし、居住１０年で家賃免除。

４・農地付き空き家制度
平成２４年度より空き家バンクに登録された農地付き空き家について、空き家に付随する遊休農地１アール以上について、農業委員会の区内指

ら連絡を取り、物件を賃貸に回せないか、といった交渉まで行っている、という積極性である。これには大いに感銘を受けたが、これも空き家データベースを活用することによってできることである。

京丹後市は雲南市と比較して空き家対策の動きが遅いと言わざるをえない。先ずは詳細な空き家調査の実行とデータベース化を急ぐ必要がある。

京丹後市も空き家改修などの補助制度も作られているが、雲南市と比較すると手薄い感じは否めない。しかし、全国の自治体で都会からの移住定住希望者の獲得競争が起きている中で、優遇制度だけをあてに移住希望者がその自治体を選んでくれるのではない、ということについて今一度考える必要があると思えた。

受け入れ側の自治体の真剣度と併せ、そのまちの魅力や住む人の魅力が移住希望の人を引き付ける、というのが移住定住政策の原点である。つまり、行政だけでなく、地域住民や事業所なども含め「市の総合力」で人を呼び寄せる決意と行動力が移住定住政策には不可欠だ、ということを改めて認識した。

京丹後市も一定の優遇策は講じなければならないが、それだけでは移住希望者獲得競争に勝てない。優遇政策やサービス合戦で移住希望者を呼び込もうとするのではなく、京丹後市の持つすべての事柄の価値を高め、産業・教育・文化・人材・行政の真剣度など「市の総合力」の結集を本気で考え、都会からの移住希望者から「選ばれる自治体」にならなければいけないのではなかろうか。

【参考資料　雲南市の定住施策の取り組み】

雲南市役所での研修

三日市ラボ（シェアオフィス）

定を行ってもらい、空き家と農地をセットで売買する。

5・地域との協働による定住推進交付金制度
地域と一体となって定住推進図るため、地域自主組織が配置する定住協力員の活動費として５万円を交付する。

6・就農農希望者のワンストップ支援窓口設置
新規就農を目指す若者を支援する制度などの相談や支援窓口。

7・三日市ラボ（シェアオフィス）
空き家を活用したシェアオフィスで平成27年5月にオープン。(自由席１２席。固定席１０席)。
ネット環境を整備し、都市からの人材の流入や都市と雲南市の人材間での仕事のやり取り、及び異業種連携、新たな起業などの効果を目指す。

その他にも、市役所産業振興部内に無料職業紹介所の開設や、定住支援サイトの開設、次世代を担う若い人材育成の養成講座、結婚対策なども実施している。

4、 所見

雲南市の移住定住対策は、子育てや教育も含め、雇用や住宅政策、地域住民の受け入れ環境など、複数の施策を動員する「総合的・複合的」な取り組みとして行われていると思えた。

職員体制については、定住推進員や定住企画員の 5 名の人員配置という体制をとり、移住定住の専従として相談窓口の一本化を実現し、移住希望者の仕事探しや地域の受け入れ相談、空き家活用まで、しっかりと進めていた。このことは実際に移住されてきた人から「安心感やスピード感があって良かった」という好意的な感想となって表れている。この人員配置を見て雲南市が移住定住に力を入れていることが伝わってきた。

また、移住対策では移住希望者の住居のことが課題になるが、このことについて、空き家の利活用対策が京丹後市よりも一歩も二歩も前に進んでいたのが印象的だった。国の緊急雇用対策を活用して市内の空き家をすべて調査し、今すぐ使えるものから廃屋までみると分類し、データベース化ができていた。このことで、定住推進員がどの地域にどのような空き家があるかが容易に把握することができ、移住希望者からの相談にもきめ細かく対応できている。

さらに、雲南市の空き家対策で特筆すべきは、空き家の所有者に市側か

幸運なんです。

雲南です。

雲南市の定住施策の取り組み

雲南市　政策企画部　うんなん暮らし推進課

【平成27年4月版】

雲南市について

【人口】
40，850人（多いほうから606位、
1位は横浜市371万人））

【面積】
約553平方キロ（大きいほうから118位、
1位は高山市2，177平米））

【人口密度】
約73人／平方キロ（多いほうから1，246位、
1位は豊島区22千人／平方キロ）

【高齢化率】
34%（日本の25年先を行く課題先進地）
35%

【地勢】
南北36キロの間に、人の住んでいる標高が北部40メートル、南部600メートルまで変化。年間平均気温で1～2度の違い。（北で雨、南で雪）
旧町村の中心市街地を核として、山間に集落が点在する典型的な中山間地であり、交通網がぜい弱。水稲は高冷地でブランド米に匹敵する野菜類は少量多品目。

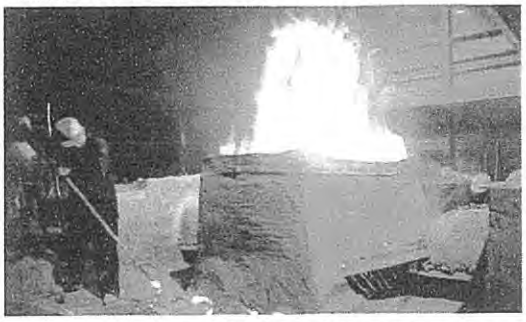
※1742市区町村の内訳
（790市、23区、746町、183村）

雲南市について

【出雲神話の舞台】須我神社の夫婦岩
ヤマタノオロチ、八本杉神社、尾留大明神旧社地(草薙の剣)、草枕、天ヶ淵、印瀬の壺神

【歴史と伝統】稚児行列(吉田町)
大東七夕まつり、加茂岩倉遺跡、神原神社古墳

【自然の豊かさ】棚田百選　山王寺棚田
日本の滝百選　八重滝　竜頭が滝、日本桜名所百選　奥伊川堤防桜並木、日本森林浴百選　さえずりの森、赤川ホタル条例



【たたら製鉄】菅谷高殿、菅谷たたら山内
(写真は復元たたらの様子で参考)

雲南市の定住施策

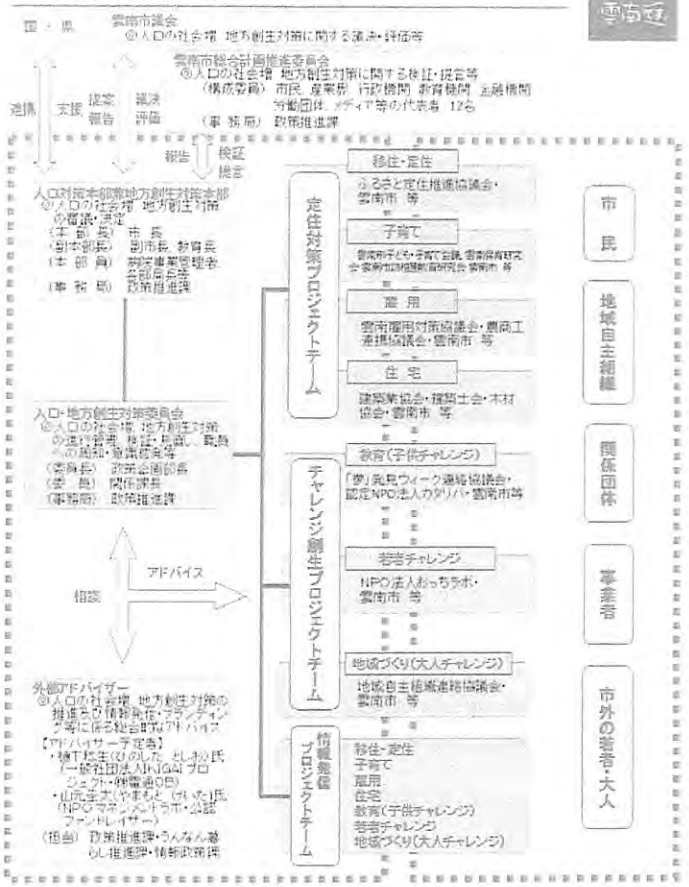
『3つの柱』

①　定住推進員・定住企画員制度
(H27年度増員:3名⇒5名)

②　空き家活用
(H17～26の空き家バンク成約件数229件)

③　地域との協働による定住推進
(市内30の交流センター単位での設置)

人口の社会増・地方創生の推進体制



定住推進員制度

定住相談のワンストップ窓口として専属スタッフを3名配置

加藤正澄
大東・木次

山根 健
三刀屋・加茂

原田信二
吉田・掛合

業務内容
- 空き家など住居情報の提供
- 就業、就農支援
- 定住後の生活サポート　など

メリット
- 素早く対応 【スピード】
- きめ細やかな対応 【丁寧】
- 窓口の明確化 【安心感】

定住希望者が望む情報を 的確に把握し
素早く 丁寧に 提供する

定住推進員 活動実績

（平成27年3月末現在）

年度	相談件数	空き家成約件数	定住世帯数	定住人数	うち高校生以下
H17	100	17	21	47	8
H18	127	16	24	59	10
H19	132	19	31	75	23
H20	104	16	19	50	18
H21	154	21	24	68	20
H22	110	22	26	70	18
H23	168	28	30	83	22
H24	186	26	34	90	30
H25	185	29	30	76	22
H26	212	35	36	87	26
計	**1478**	**229**	**275**	**705**	**197**

【利用された方の感想】

（1） 相談から移住するまで一貫して同じ推進員に対応してもらい安心して移住することができた。

（2） きめ細やかに対応してもらい、手続きなども代理できるところはかなりの部分で手助けしてもらい助かった。

定住企画員の配置（H27年度～）

志しを持って移住してきた人（チャレンジ人材）を支援する企画員を2名配置

吾郷篤史

須藤和裕

【定住企画員の役割】

定住推進委員の業務

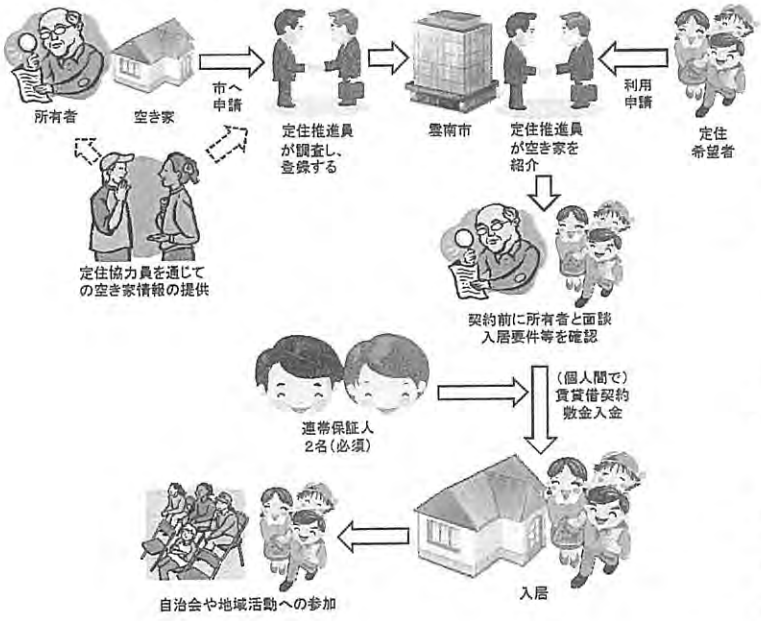
＋

① 市内産業振興のための人材の定住促進と積極的勧誘
② 地域教育文化、福祉向上、健康増進等にかかる人材の定住促進と積極的勧誘
③ 住みよいまちづくりに寄与すると認められる人材の定住促進と積極的勧誘

主要な活動

- **空き家バンクの運営**
- **移住者の受入支援**
- **定住フェアでの情報発信**
- **ブログでの情報発信**
  「田舎暮らし応援ブログ」
- **SNSでの情報発信**
  facebook版「ほっこり雲南」
  Twitter版「ほっこり雲南」
- UIターン交流会の開催
- お試し移住プログラムの支援
- 移住者からの相談対応
- 移住ガイドブック作成

空き家バンク制度



● 市内の空き家情報を収集登録し、定住希望者へ提供

【交渉・契約は当事者間】

● 所有者との面談や現地見学など納得のいく物件に出会えるよう専属のスタッフがサポートを行います。

● 地元自治会への入会が原則で、自治会長へのつなぎを行います。

不動産業者との協議会

空き家バンクの課題

- ◆ 空き家ニーズ、希望者の多様化
- ◆ 空き家物件の老朽化
- ◆ 空き家情報の不足（仏壇、荷物の処分）
- ◆ 地域の受け入れ機運の醸成
- ◆ 宅建業者、不動産業者とのさらなる連携
- ◆ 農地などを含めた一括での売却

空き家調査事業（H23年度実施）

【目的】空き家の実態把握とデータベース化

- 市内を3つのブロックに分け、調査員6名配置
- 地域協力員を配置（地域自主組織ごとに1名）

【一次調査】 空き家情報の収集（実態把握）

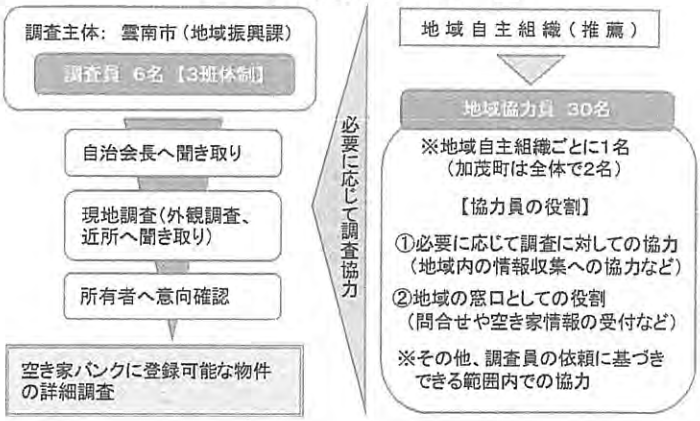
↓

所有者に意向確認

↓

【二次調査】 物件情報の詳細調査
データベース化

空き家調査事業フロー図



空き家調査の実施状況

- 空き家調査件数　871件
- 空き家発生率　およそ6.5%

空き家調査件数	二次調査対象件数	空き家バンク登録件数	継続・保留物件
871	358	85	149

事業費

12,870千円

【財源内訳】

緊急雇用創出臨時特例基金事業 11,320千円（県10/10）

市町村定住支援体制強化交付金 1,550千円（県10/10）

スケジュール

4～5月 住民周知 → 6～10月 第1次調査 → 11～2月 第2次調査 データベース化

空き家改修事業補助金

雲南市への定住を目的に空き家の改修を行う場合に、改修費用の一部を助成
（空き家情報活用制度の登録物件に限る）

【背景】

○定住実績の7割以上が空き家へ入居

○一方で、空き家情報は不足（空き家はあるが・・・）

○空き家ストックの老朽化（特に水回り）

➡ 空き家の再生活用

事業の実施状況

実施年度	実施件数	定住人数	改修内容	前住所
21	3	7	トイレ、台所等の改修	大阪、鳥取、県内
22	3	7	トイレ、台所、風呂等の改修	東京、県内2
23	6	13	トイレ、台所、風呂等の改修、屋根・壁等の補修	大阪2、京都、千葉、東京、県内
24	3	11	床・縁側等補修、トイレ、台所、風呂等の改修	埼玉、鳥取、県内
25	5	9	トイレ、壁補修、塗装、板金、電気、水道工事	栃木、山口、県内2
26	2	5	ガス設備、畳変え、洗面台取替え、給・排水管布設替え、木、アルミ、設備、電気、内装、左官工事	神奈川、埼玉
計	22	52		

補助金の額

【補助率】　対象経費の2分の1以内

【補助上限額】　50万円

【対象経費】　空き家の改修に要する経費（消費税を除く）その額が50万円以上

補助金の対象者

（1）市外から雲南市へ移住する者（①～③の全ての該当者）

① 市内に住所を有していない者、または市内に住所を有して1年を経過しない20歳以上の者

② 市外に5年以上居住している者（市内に住所を有して1年を経過しない者は、住所を有する前に市外に5年以上居住していること）

③ 今後10年以上定住する見込みのある者

（2）空き家物件の所有者、入居者または地域自主組織、自治会等、NPO法人（上記が入居する場合に限る）

空き家片付け事業補助金（平成27年度～）

雲南市への定住を目的とした空き家の片付けに要する費用の一部を助成
（空き家情報活用制度の登録物件に限る）

【背景】
○定住実績の7割以上が空き家へ入居
○一方で、空き家情報は不足（空き家はあるが・・・）
○空き家ストックの老朽化（特に水回り）

➡ 空き家の再生活用

補助金の額

【補助率】　対象経費の2分の1以内
【補助上限額】 5万円
【対象経費】　住宅として居住に必要な部分の片付けに要する経費（管理費、消費税を除く）

補助金の対象者

（1）市外から雲南市へ移住する者（①～③の全ての該当者）
① 市内に住所を有していない者、または市内に住所を有して1年を経過しない20歳以上の者
② 市外に5年以上居住している者（市内に住所を有して1年を経過しない者は、住所を有する前に市外に5年以上居住していること）
③ 今後10年以上定住する見込みのある者

（2）空き家物件の所有者、入居者または地域自主組織、自治会等、NPO法人（上記が入居する場合に限る）

雲南市UIターン促進空き家リフォーム事業（H24、H26年度実施）

地域自主組織と協働し、空き家を子育て世代のUIターン用住宅として整備する。入居者の要望に沿ってリフォームし、居住10年で家賃免除とする。（平成24年度創設、平成24年度1件、平成26年度1件）

【地域自主組織と協働実施】
・地域が求める人材を募集要件で設定（小学生以下の子どもがいる夫婦世帯、地域活動に積極的に参加できるほか）
・地域自主組織へ住宅管理を委託（家賃徴収は市で。その他の管理業務は地域で）

「選ばれる」地域
から
「選ぶ」地域へ

［事業フロー図］

【募集要件】
●小学生以下の子どもがいる夫婦世帯
●地域活動に積極的に参加できる方

県外
UIターン者

募集・審査

賃貸契約（10年居住で家賃免除）

家賃 1.6～3.6万円／月
（取得費、改修費、管理委託費用により算出）

（432万円）

空き家物件

管理

地域自主組織
【住宅管理】
住宅管理、入居者受入れ
空き家の選定・交渉（協力）

管理委託

雲南市
【UIターン促進賃貸住宅の整備】

市が取得
リフォーム工事

空き家を取得し、入居者の希望に応じてリフォーム工事を実施。

【ポイント】
◎募集要件に基づき入居者を選定
◎入居者決定後、オーダーメイドで空き家をリフォーム
◎10年居住で以降の家賃ゼロ

無料職業紹介所

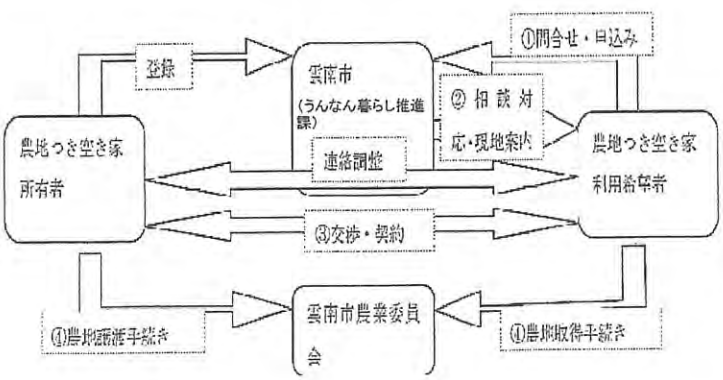
企業の人材不足解消と市内就職の促進を目的に
市役所産業振興部内に開設

雲南なんです。雲南暮

農地付空き家制度

雲南市では、平成24年より空き家バンクに登録された農地付空き家について、空き家に付随する遊休農地1アール以上について農業委員会で区域指定を行ってもらい、空き家と農地をセットで売買することができるようにしています。

【農地付空き家として登録したい方の手続きの流れ】
①希望者からの問い合わせや申込み
②相談対応、現地確認
③所有者と希望者との交渉・契約
④雲南市農業委員会への農地付空き家のための区域指定手続き
⇒雲南市農業委員会の会を経て区域指定（地番指定）登録⇒農地付空き家の手続き完了（この後、売買可能になります。）



【下限面積の引き下げ】
農地の権利取得については農地法に定める50アールが定められていますが、雲南市では平成21年の農地法改正を受け、市内農地の耕作状況を考慮して、これを独自に引き下げ、農地の所有権移転をしやすくする取り組みを行っています。
（平成24年11月20日施行）

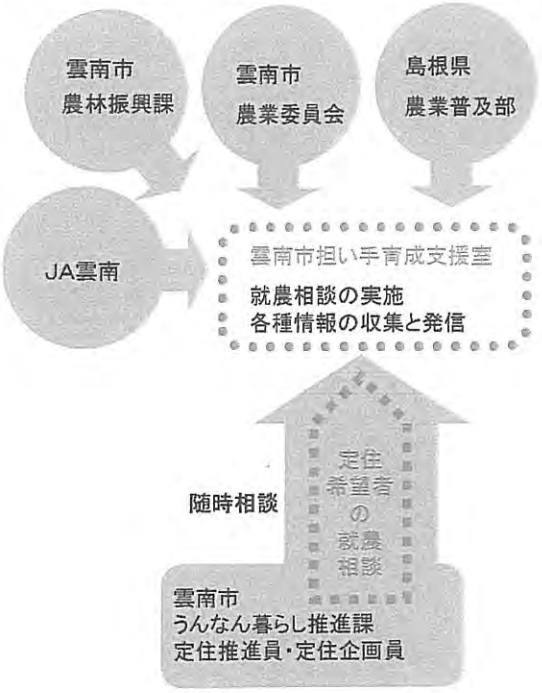
【地区】	【下限面積】
大東町	30アール
加茂町	20アール
木次町	20アール
三刀屋町	30アール
吉田町	30アール
掛合町	30アール

<お問い合わせ先>
（農地付空き家制度の利用について）
雲南市政策企画部うんなん暮らし推進課
TEL 0854－40－1014
（農地の取引について）
雲南市農業委員会
TEL 0854－40－1092

雲南なんです。雲南暮

就農支援

就農希望者のワンストップ支援窓口として設置
関係機関が一体となって就農を支援



就農サポート事業

市内で新規就農を目指す若者を支援。
2年間の研修期間中（雇用就農の場合は1年）、市内の受入農家で農業の基礎や実務を研修。

研修、就農、定住をトリプルサポート！

① 現地見学会、事前研修で研修先をしっかりチェック
　生活費支援や傷害保険加入で研修中の生活をサポート

② 就農準備金助成や農地情報の提供など就農をトータルサポート

③ 住まい紹介や地域とのつながりなど定住後の生活をサポート

地域との協働による定住推進交付金

地域と一体となった定住推進を図るため、地域自主組織が配置する定住協力員の活動費として交付金（1組織5万円）を交付する。（ただし、加茂まちづくり協議会に関しては2名10万円を交付する。）
市内30か所の交流センター中27カ所で配置。（H26年度）

定住協力員の役割

①空き家情報の収集協力
②地域自主組織の定住窓口
（市担当と定期的に情報共有）
③地域の受入れ気運醸成への協力

定住フェアイベント

東京、大阪、広島で開催される定住フェアイベントにブース出展し、移住希望者の相談対応を行っている。
（雇用、新規就農担当セクションと連携）

● しまねUIターンフェア
広島、大阪、東京

● 新農業人フェア
東京、大阪、広島

雲南暮らし体験プログラム

田舎への移住を希望する子育て世代を対象に、雲南での暮し体験や移住に必要な住まいや就業先等の情報を提供

●実施日程（随時募集）

1日目：田舎体験、地域との交流
2日目：空き家見学、就業相談、先輩Iターン者宅訪問など

定住支援サイト「ほっこり雲南」

子育て世代をターゲットとした情報発信
●空き家検索機能
●暮らしを楽しむ情報（産直市の情報など）
●UIターン者のインタビュー記事

⇒ リニューアル予定
（1） スマートフォン対応
（2） 情報発信量の増
（3） SNSとの連動

地域おこし人材の誘致

地域が求める人材を全国公募し、地域おこし体験の場を提供。

《人材誘致》
「担い手が不足する地域」と「地域貢献や自己実現の場を求める人材」をつなぐ

【支援内容】
地域おこし体験者への滞在経費支援
受入団体への支援　など

地域おこし人材の受入状況

体験者	受入先	体験内容
20代男性	地域自主組織	地域の観光交流活動のコーディネート
50代男性	NPO法人	地域の定住促進活動のコーディネート
30代女性	地域自主組織	地域食材・産品の活用コーディネート
30代女性	NPO法人	農家レストラン運営のコーディネート
30代女性	雲南市（地域おこし協力隊）	広報紙の発行、小学校跡地の利活用検討など
50代男性	雲南市（地域おこし協力隊）	閉校記念事業への参画、今後の地域のあり方検討など
50代男性	雲南市（地域おこし協力隊）	閉校施設の活用、地域資源の活用（里山活用）、地域イベントの支援

⇒一定の効果を挙げており、今後も地域おこし人材の誘致を継続する予定。

UIターン者交流会

情報交換や交流の場、定住施策のニーズ把握

年間2回程度開催。
⇒今後はオープン予定の三日市ラボ（シェアオフィス＆コワーキング）で定期開催を検討中。

ふるさと定住推進協議会

定住施策の総合的、計画的な推進を図るため市役所関係部局、関係機関で構成

三日市ラボ（シェアオフィス）

都市の仕事を田舎でも行うことができる場や若者チャレンジの場として、空き家を活用したシェアオフィスを設置（平成27年5月オープン）

1階自由席（12席）
2階固定席（10席）

都市からの人材の流入や、都市と雲南市の人材間での仕事のやり取り及び異業種連携、さらに新たな起業などの効果を目指す。

⇒ ネット環境があれば仕事ができる方を広く募集

次世代を担う若い人材育成

【幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～】

塾生：20代～30代10名程度

6～11月に毎月1回セミナー＆ワークを開催、12月最終報告会

【目的】社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘と育成

平成22年度からの塾の卒業生は60名。
平成26年4月には塾の卒業生をメンバーとして、塾生の支援、地域課題の相談窓口と解決を目指すNPO法人おっちラボが誕生。

⇒ 今後は人材誘致、スキルの移転、人材育成、若者のチャレンジを応援する体制づくりを進める予定

結婚対策

① 無料結婚相談所事業

雲南市内縁結びの会による結婚相談と利用者向けのイベント実施の支援を行う。

② 結婚活動支援団体支援事業

雲南市内の結婚活動団体による市内の未婚男女を主な対象として行う活動を支援する。

③ 結婚円卓会議

「出会い、結婚、妊娠、出産、子育て」までの切れ目のない支援を結婚対策分野では何ができるかを検討し、施策に反映させる。

⇒ 今後は地域の担い手育成、次世代育成を視野に入れた結婚対策を推進する予定

人と自然と歴史と食と
たくさんの幸に
ありがとう。

【2007年～2014年】

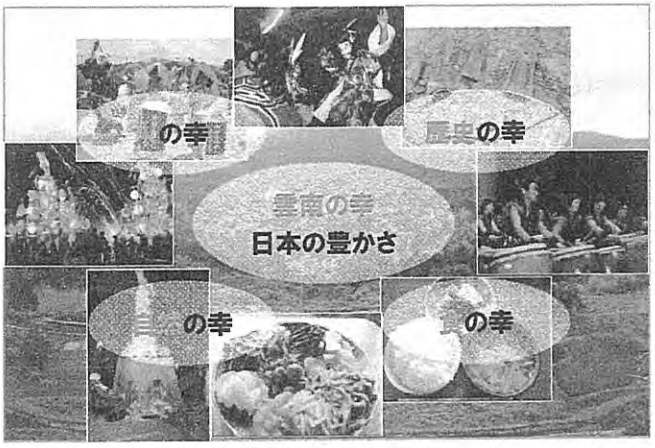
雲南ブランド化プロジェクト
振り返り・総括

雲南市

2014年5月

雲南市とは

幸運なんです。雲南です。



平成16年11月雲南市誕生
（6町村、市政移行型の合併）

- 人口 41，927人
  （平成22年国勢調査速報値）
- 世帯 12，908世帯
  （平成22年国勢調査速報値）
- 面積 553．4k㎡
  （東京23区の約9割）

平成19年 7月　雲南ブランド化プロジェクト 発足

雲南市が引継いできた“幸”を守りながら、誇りをもって自立し、その魅力を発信します。

ブランドメッセージ

幸運なんです。雲南です。

幸運なんです。

雲南です。

わたしたちの雲南市には
実にさまざまな幸があふれています。
美しい日本の原風景、自然の幸。
神話に彩られた史跡や文化遺産…歴史の幸。
毎日が新鮮、たわわな食の幸。
そして親（ちか）しく交わされる笑顔、人の幸。
変化が求められる時代に、
これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して
このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。

雲南ブランド化プロジェクトの基本方針

幸運なんです。雲南です。

1 雲南市に息づく「豊かさ」を総合的に表現

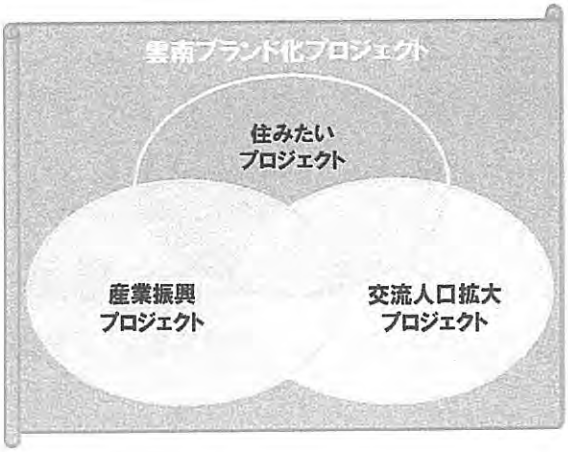
個々の幸だけでなく“雲南の幸” 全体を伝えたい

2 創りだす・伝える運動体づくり

雲南市の「幸」に気づき、感じ、創りだしていく運動体へ

3 量より質を重視

限られた原資の中で、市内外から共感・応援される雲南ブランドづくり



【プロジェクト推進役】
3部局によるプロジェクトチーム
（政策企画部・産業振興部・教育委員会）

食のまち、歴史のまちと言えば雲南市、雲南市と言えば食のまち、歴史のまちといった具合に、雲南市のそうしたイメージがピーンとくる雲南ブランド化プロジェクトに取組んでいます。

市報うんなん7月号（H23） 市長コラムより抜粋

雲南ブランドが目指す姿

幸運なんです。雲南です。

生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり

《各施策》

住みたいプロジェクト⇒定住人口の確保

・コミュニティ支援(小規模多機能自治の推進)
・定住推進
・キャリア教育の推進
・歴史資源等の活用 など

Ⅱ.定住環境

Ⅰ.住民自治

Ⅲ.保健・医療・福祉

Ⅳ.教育・文化

産業振興プロジェクト
⇒地域経済の活性化
雇用の創造・確保

・農商工連携プロジェクト(スパイス、スイーツなど)
・産直、6次産業化の推進
・里山再生(森林バイオマス、放牧) など

交流人口拡大プロジェクト
⇒交流人口の拡大

・地域資源を活用した交流活動の推進
(食の幸、歴史の幸の活用)
・都市間交流の促進
・桜まつり、うんなん幸あり月の展開
・尾原ダム中心としたスポーツ観光 など

Ⅴ.産業・雇用

雲南ブランド

人の幸　自然の幸　歴史の幸　食の幸

人と自然と歴史と食と たくさんの幸にありがとう

人と自然と歴史と食と
たくさんの幸に
ありがとう。

第1期【2007～09年度】

第1期［2007～09年度］のタイムテーブル

幸運なんです。雲南です。

プロジェクト・タイムテーブル（3年間の骨格）

H19 年度

“まずは、雲南の素晴らしさを知ってもらおう”

1／雲南の「幸」に気づく
2／映画「うん、何」とのコラボレーション
3／遊休公有施設 有効活用調査（早稲田大学）

H20 年度

“参加・運動体 →興味・信頼”

1／「食と農」のシンボル拠点とネットワーク企画
2／雲南ブランドブック発刊
3／ウェブサイト開設

H21 年度

“憧れ・誇り”

1／「食と農」のシンボル拠点開設
2／銅鐸＆神話のストーリー制作

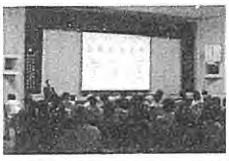
第1期［2007～09年度］の取組み（1）

幸運なんです。雲南です。

2007年度の主な取組み

「新」屋台での販売は、いずれも好評で完売。
想像以上に評価が高く、参加業者の自信に。
イベント全体を通じ、雑誌などメディアの取材が多数。

○ 雲南ブランド化プロジェクト開始宣言（7月10日）



・市民を集めて市長による開始表明

○ 「幸運なんです。運なんです。」見える化展開

・市民バスラッピング

・祭りグッズ（うちわ）配布

・ポスター配布

○ 「幸運なんです。雲南です。」体感フェア@東京国際フォーラム
（11月12日～16日）

・「新」屋台 焼さばずし 煮しめ&山菜おこわ の販売

・焼さばずし料理教室

・ボジョレースーパーナイトでの協賛

・映画「うん、何？」上映会

・トークイベント

第1期［2007～09年度］の取組み（2）

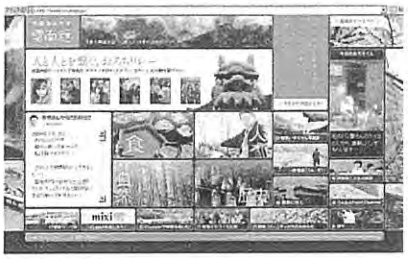
幸運なんです。雲南です。

2008年度の主な取組み

雲南さくらまつりとあわせ、2日間で約50,000人の集客。
2008年度以降も継続的に実施。

○ 雲南ブランドブック発刊

○ 雲南ブランドWEB開設



・http://www.co-unnan.jp/

○ 「幸運なんです。雲南です。」体感フェア@雲南さくらまつり

※東京での体感フェアを市内で再現

【目的】
■雲南市全体のまちづくり
. . . 雲南さくらまつり、市内全域の参加

【手段】
■「雲南の食を味わえる場を提供
■超ロングテーブル設置による商店街の賑わい創出
■市民参加による運営
■中高生のふるさと教育・キャリア教育実践の場

【内容】
<ギャラリー>
・ブランド関係や食育関係の写真展示 など
<カフェ>
・郷土料理（煮しめ、焼さば寿司） など
・地元素材による創作料理 など
※ 市内全域から約25団体参加
<催し>
・酒蔵コンサート@木次酒造 My箸づくり
・ライブイベント（中高生のボランティア参加） など
<その他>
・学生の独自設計によるダンボール椅子の活用

・100mの超ロングテーブル

・学生や住民による共同作業

・空き店舗の活用

・案内係

・ミヤザキケンスケさんによる
幅10mの大作「雲南市」

・ライブイベント

・ダンボール椅子

第1期［2007～09年度］の取組み（3）

幸運なんです。雲南です。

2008～09年度の主な取組み ①

○ 「食と農」のシンボル拠点とネットワークづくり

【出雲湯村温泉にシンボル拠点を開設】

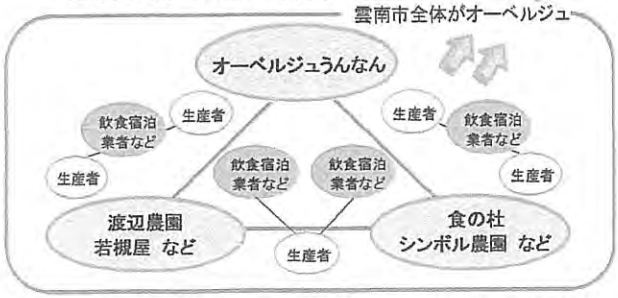
■築100年の古民家を改修
■木造2階建て

オーベルジュの機能
（宿泊施設付レストラン）
宿泊（2室；定員10名）
&レストラン（34席程度）

「出雲湯村温泉」公衆浴場

市外へ発信

【6次産業ネットワークを構築し、
地域全体をオーベルジュに. . . 】



1次産業（生産者）×2次産業（食品加工業）×3次産業（サービス業）
⇒ 6次産業ネットワークを構築

○ 銅鐸＆神話を見せる

【市民参加・体験型舞台芸術活動 ビリオネア大学】

■全国公募「新ヤマタノオロチ伝説 求む」
※全国から68作品の応募があった

関心を高める

■優秀作品の舞台化
最優秀賞 ・異伝ヤマタノオロチ
優秀賞 ・「ヤマタノオロチ」
洗濯機の中から生まれる！

・上演

・練習

次代へ引き継ぐ

第1期［2007～09年度］の取組み（4）

幸運なんです。雲南です。

2008～09年度の主な取組み ②

○ キャリア教育推進プログラム

【「夢」発見ウィーク】

・職場体験

・坂本精志社長の
講演を聞く子どもたち

【 幸雲南塾】

・熱心に聞き入るこどもたち

・自分の将来について語るこどもたち

「夢」発見ウィーク　09年度からは市内全中学校で一斉に実施。
幸雲南塾　09年度より中学3年生を対象に1泊2日の日程で実施。
いずれも、継続実施中。

スパイスプロジェクト 9品目　スイーツプロジェクト 約15品目 が開発
農商工業者等の連携により、現在も様々なプロジェクトが展開中。

○ スパイスプロジェクト・スイーツプロジェクト

【 地元素材を使用した上質な商品の開発・販売 】

・14団体参加

・9社参加

○ 地産地消・地産都消

【 JA雲南 産直市事業の支援 】

・阪急オアシスでの産直市

人と自然と歴史と食と
たくさんの幸に
ありがとう。

第2期【2010～14年度】

第2期［2010～14年度］の方向性

幸運なんです。雲南です。

第1期（2007年度～09年度）を振返っての方向性

1. 具体的な成果を出していく。

①定住人口確保 ②地域経済活性化（雇用の創造・確保） ③交流人口の拡大 など具体的な成果へ結びつける。

住みたい・産業振興・交流人口拡大
それぞれのプロジェクトを充実させていく。

里山再生etc

2. 雲南の“幸”にさらに気づいてもらう

浸透しつつあるが、まだ十分とはいえない。

引き続き、雲南の“幸”に気づく
取組みを推進する。

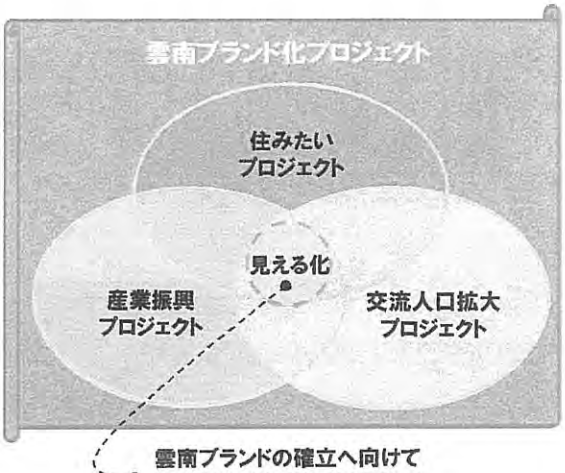
見える化etc

3. 全市的な取組みにしていく。

これまでの取組みが市民に浸透していない。

できるだけ多くの市民の方や
共感者・応援団と一緒に進める。

ネットワークetc



雲南ブランドの確立へ向けて
各プロジェクトの効果を高める
効果的な“見える化（情報発信）”に取組む

第2期［2010～14年度］のタイムテーブル

幸運なんです。雲南です。

プロジェクト・タイムテーブル（5年間の主な取組み）

第2期始動（第1期からの転換）

2010～11年度

1/「食と農」のシンボル拠点とネットワークづくり … オーベルジュ雲南開設、農家レストラン開設（道の駅おろちの里など） 産
2/高速道路開通を見越した情報発信コンテンツの充実 … 菅谷たたら・銅鐸のデジタルコンテンツ化 見
3/たたらの里山再生プロジェクト構想のキックオフ … 木質バイオマス利活用実証事業 産
4/市外の応援者ネットワークの拡充 … 次世代育成支援（起業塾開催、雲南版ダボス会議（仮称）） 交

第2期メインテーマ「里山再生」の実働

2012～13年度

1/高速道路開通に対応した交流拠点ネットワークの再構築と情報発信の強化 見
2/たたらの里山再生プロジェクト構想の実現（地域内循環型社会の構築） 産
3/市外の応援者ネットワークの確立 交
4/菅谷たたら山内の保存修繕の開始 住

第2期最終年（次のステージへ）

2014年度

1/たたらの里山再生への市民運動体の拡充
2/第1期・第2期計画の検証と成果報告
3/世界遺産登録へ向けた活動展開

見 住 産 交

2007～09年度

【第2期計画を支える第1期計画の継続的取組み】
第1期計画を通じてはじまった取組みが継続され、市民運動体が途切れることなく定着化する。

【参考】たたらの里山再生プロジェクト　2011年「地域活性化総合特区」指定

現状・課題

世界

○食料（食料危機）
○環境（温暖化、異常気象、災害）
○エネルギー・水資源（化石燃料依存、外国資本参入）

雲南市　～たたら製鉄で栄えてきた頃の面影はない～

【現状】○森林・農地の荒廃
○里山と暮らしの豊かな関係の消失
【課題】○エネルギー供給機能の消失・食料供給機能の低下
○里山集落の衰退

機能が失われた森林（保安林）と農地

我が国の中山間地域の里山、農地は、このままでは壊滅的な状況

特例・支援措置

○保安林活用の手続き簡素化・指定施業要件等の緩和
⇒ 保安林区域内の積極的な施業
○農地取得に係る下限（別段）面積の緩和
⇒ 小規模・遊休農地の有効活用
○「スーパーコミュニティ法人」制度の創設　⇒コミュニティビジネスの推進
○財政上・税制上の支援　⇒安定的な地域経営

提案

～持続可能な中山間地域の新たなモデル～
映画「もののけ姫」のモデルとなり、「たたら製鉄」により隆盛を誇った雲南市から、“たたら”に代わる新たな里山活用による地域力向上モデルを提案する。

市民による日本のふるさと再生の挑戦

目標・取組

里山の未利用資源を地域・市民が総がかりで最大限活用する持続可能な地域づくり

地域・市民が「たたらの里山」に戻る

目標値
○新たな雇用者数　100人
○まちづくり活動に参画する市民の割合　66.7%→75%

里山のエネルギー利用の推進
○森林のバイオマスエネルギー等再生可能エネルギー事業の推進（民間企業による合同会社設立、市民参加による木材集積、地域通貨による経済循環）

活動指標　木材生産量　5,273m³→10,000m（年間）

里山の食料供給機能の復活
○里山放牧の推進
（輸入飼料に頼らない循環型畜産）
○スパイスプロジェクトの推進
（鳥獣被害対策も担う農商工連携による6次産業化）

活動指標　里山放牧面積　138㌶→200㌶

里山の小規模多機能自治への挑戦
○コミュニティビジネスの推進
（市民サービスの提供、たたら製鉄や農村文化を伝える体験観光）
○サポート体制の充実
（里山や農地を守る担い手の育成）

活動指標　コミュニティビジネス売上高
110万円→200万円（42団体平均/年間）

第2期［2010～14年度］の取組み（1）

幸運なんです。雲南です。

見える化プロジェクト

○ **幸運なんです。雲南です。体感フェア**

雲南の食の幸をはじめとした地域資源を体感するイベントとして定着

○ **「うんなん幸あり月」 秋キャンペーン**

幸あり月イベントの共同記者会見を実施

加茂岩倉遺跡で開催された「神在り月の夕べ」

地域資源を活用した秋のイベントを、銅鐸が出土した10月中旬からの約1カ月間、「うんなん幸あり月」として一体的にPR。

○ **雲南ブランドWEBサイトの改修**

より魅力が伝わるように写真を大きく使い、また、スマートフォンでも見やすくデザインも一新

○ **道の駅「たたらば壱番地」での観光情報の発信**

情報コーナーに設置された「ジェスチャーカム」により市内観光情報を発信

○ **バックボードの製作**

全国公募でデザインを決定。市長の記者会見等で活用し、情報発信に役立てている

○ **公式フェイスブックの開設**

リアルタイムで市内の動きを発信。860「いいね」を達成！（H26年5月末）

第2期［2010～14年度］の取組み（2）

幸運なんです。雲南です。

住みたいプロジェクト

○ ふるさと教育・キャリア教育

夢発見ウィーク（3日間連続の中3職場体験学習）

幸雲南塾inさんべ（1泊2日の中学生キャリアアップ宿泊研修）

ヤマタノオロチ伝承地めぐり（ふるさと教育プログラム）

ふるさと体験活動（不登校児童生徒対象プログラム）

第1期から引き続き、子どもたちの勤労観や職業観、ふるさとへの愛着心を地域全体で育てる取り組みを実施。

医療やITなどの専門スキルを有する人材をターゲットに、空き家の活用など移住支援策を展開している。

○ 定住促進事業

UIターンフェア（東京・大阪・広島）での移住相談

農地つき空き家制度の創設

移住支援コーディネーターによる情報発信や移住支援を展開

東京下北沢のITクリエーターと連携した「場づくりの学校」

第2期［2010～14年度］の取組み（3）

幸運なんです。雲南です。

住みたいプロジェクト

○ 歴史資源の伝承・活用

菅谷たたら山内、加茂岩倉遺跡出土銅鐸を3D撮影

全国公募の「新ヤマタノオロチ伝説」を舞台化

○ 元気な地域づくり活動発表会

地域づくり活動の底上げを図るため、地域自主組織ごとに活動を発表

全国各地から実習生が参加する「近代たたら操業」

産業振興プロジェクト

地元素材を使った上質な商品開発に合わせ、県外への販路拡大や市内飲食店でのメニュー化など市内波及に取り組んでいる。

○ 農商工連携事業

【たまごプロジェクト】
市内飲食店（20店舗）で「うんなんオムライス」を提供

【スパイスプロジェクト】
市内19店舗で地元産の香辛料を活用したスパイス鍋の販売がスタート

【山の幸プロジェクト】
お正月セットを販売

雲 出雲のみなもと 南

農商工連携産品の統一デザイン（ロゴマーク）を作成